委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（B）】
実施内容報告書

団体名：公益財団法人千葉市国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	日本語教育・相互理解促進体制整備事業「ちば多文化協働プロジェクト」
事業の目的	対話を基盤とする日本語支援活動の普及による日本語教育の質の向上と機会拡充、および多様な言語・文化を背景に持つ人々のあいだに対話の機会を創出することによる相互理解促進
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	千葉市内には協会のマンツーマン日本語学習支援事業のほか、25か所の日本語教室が存在する。その活動内容は多様であるが、旧来の文法積み上げテキストを利用した学習もまだまだ多くを占めており、日本語習得の面からも、また、外国人市民と日本人市民の対話を通した相互理解という面からも、実効性に課題がある。 H26,27年度の文化庁委託事業において、学習者の社会参加を支援するという視点から日本語教育の取組をおこない、外国人市民を主体的な発信者と捉えた内容重視・学習者主体の日本語クラスと、同コンセプトに基づく日本語ボランティア研修を実施した。また、日常、在住外国人市民と接する機会を持たない市民層や若者世代を対象とした多文化理解の取組もおこなった。各取組やその成果の広報によって一定の成果が上がっているものの、体制整備は未だ途上であり自立化に至っていない。特に、旧来的な日本語指導の方法は、精神的な負担から若いボランティアが定着しない要因の一つとなっていることから、「学習支援」の本質的な捉え直しが求められている
本事業の対象とする空白地域の状況	千葉市6区のうち、若葉区には一定比率の外国人住民が居住するものの、日本語教室が存在しない。この空白地域においてH27年度事業として日本語クラスを実施したところ、学習者、ボランティア双方において、同地域に教室のニーズが認められたが、未だ設置には至っていない。学習者はやむなく近隣区の教室や中央区の当協会に通っている。
事業内容の概要	1. 日本語教育ー対話型の活動推進により、外国人の日本語力の向上と地域社会への参加意欲促進を図る。 同時に、すべてのクラスを日本語ボランティアを始めとする日本人住民との協働でおこなうことにより、 対話の意義を日本人市民が実感できる機会とする。 2. 支援者研修ー対話型学習活動の普及促進を目的とした研修を行うことにより、日本語活動の資質向上と 新たな支援者の確保を図る。また、対話型の日本語クラスをファシリテートできる人材の育成を図る。 3. 地域における多文化理解促進と成果普及—言語コミュニティ間に対話と協働の機会を創出する。 4. 関係機関のネットワーク化—H27年度事業の中で発足させた会議体を維持・拡充する。 また、このネットワークを活用して1～4の取組を実施することで、協力関係を強化する。
事業の実施期間	平成28年5月～平成29年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

（1）運営委員会

【運営委員】

1	神吉　宇一	武蔵野大学大学院
2	楢木　かおり	千葉市中央区役所地域振興課地域づくり支援室
3	新倉　涼子	千葉大学
4	野口　恭子	特定非営利活動法人　千葉市老人福祉施設協議会 人材確保・定着推進委員会
5	萬浪　絵理	公益財団法人千葉市国際交流協会
6	鈴木　恵美子	公益財団法人千葉市国際交流協会

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年5月31日（火） 9:30～12:00	2時間30分	千葉市国際交流プラザ	神吉宇一 楢木かおり 新倉涼子 野口恭子 萬浪絵理 鈴木恵美子	1. 事業概要（事業計画・事業内容・事業運営方針）の検討
2	平成28年10月24日（月） 9:30～12:00	2時間30分	千葉市国際交流プラザ	神吉宇一 楢木かおり 新倉涼子 野口恭子 萬浪絵理 鈴木恵美子	1. 実施済み事業内容報告・質疑応答 2. 今後の事業内容検討 3. 次年度事業計画検討
3	平成29年2月14日（火） 9:30～12:00	2時間30分	千葉市国際交流プラザ	神吉宇一 楢木かおり 新倉涼子 野口恭子 萬浪絵理 鈴木恵美子	1. 事業内容報告・質疑応答 2. 事業評価

（2）地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	千葉市関係各課、警察、NPO、保育所、保健福祉センター等、外国人と接している（または今後接する可能性のある）機関と会議体を構築して連携した。この連携を活かして、また、千葉市国際交流協会登録の日本語交流員との協働で日本語クラスや多文化理解推進の事業も実施した。 日本語教育空白地域の若葉区において、市役所関連部署や関連団体、支援者と連携して、日本語クラスを実施した。

（3）中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	日本語教育コーディネーターの萬浪は取組を企画、コーディネートした。日本語クラスに関しては、中核メンバーである指導者とともに準備にあたった。 協会職員の鈴木はシステムコーディネーターとして協会内部のリソースを生かし、取組の実現を支えた。外部機関への新規の働きかけを要する場合は協会の常務理事兼事務局長や事務局長補佐が担い、地域連携の強化にあたった。 取組全体を通じ、取組4のネットワークを活かして他機関と連携・協働するほか、随時、運営委員から助言や評価を仰ぎながら事業を実施した。

3. 各取組の報告

＜取組1＞

取組1	取組の名称	日本語クラス
	取組の目標	・学習者が生活密着のテーマに関して日本の状況を知り自国と比較するという活動を通して、日本の生活についての意識化が促進される ・スピーチをしたり対話セッションに参加したりすることを通じて日本語の運用能力が培われる。 ・学習者が考えや体験を発信するという行為により、対話に参加する日本人の多文化理解が進み、また、日本語弱者の苦労や不安への共感が生まれる。日本人の意識にそういった変化を起こすことが受容感や自己効力感につながる。
	取組の内容	A.「テーマでつながる日本語クラス」（テーマは「しごと」と「環境」） ①テーマに関する調べ学習やディスカッションや専門家による講義 ②外国人住民による、国事情や日本との比較に関するスピーチ及び日本人とのグループセッション ③スピーチやセッションの内容を成果物としてまとめる活動 B.「にほんご会話クラス」 各学習者の関心に合わせ、生活課題の解決とそのトピックで相互理解を図る会話クラス C.「初級文法クラス」 他のクラスや1対1での対話型活動を促進するため、文法・文型に関する疑問にまとめて対応するクラス D.プロジェクト会議 日本語指導者や協力者と取組のあり方を検討する会議体
	☑ 空白地域を含む場合、空白地域での活動予定	日本語クラスBの1つを若葉区で実施。
	取組による体制整備	・地域で生活する外国人が生活に密着した様々なテーマについて日本事情を理解したり、必要な語彙や表現を習得したりすることが生活課題の解決につながり、社会参加が促進される。 ・参加外国人にとって自己の体験や考えを発信し日本人と対話することがエンパワメントとなり、事後も積極的・自律的に地域活動に参画することで地域社会の活性化に寄与する。 ・ テーマに関心を持つ外国人参加者を募る過程で様々な機関や個人が連携することがネットワークの強化となる。 ・学習支援者に対して、対話型教室活動の具体的なコンテンツを提供することができ、取組の拡散が図れる。 ・日本人側の異文化理解が進み、異なる視点から物を見ることの価値に対する気づきが地域社会で生かされる。（例：外国の子育てに関する知識が保育士や保健師によって業務に生かされる） それにより異なる文化を背景に持つ人々が尊重しあう社会が促進される。 ・ボランティアから、「プロが文型・文法を正確に教える場が他にあれば、自分たちは不安なく対話型活動に専念できる」という声があるため、そのニーズを満たすことで、事業目的に即した活動が普及する。
	取組による日本語能力の向上	A. 関心のあるテーマのクラスで日本人参加者との対話をおこなうことで、単語や表現を能動的に習得できる。 道具としての日本語を習得するだけでなく、日本人参加者と対等な立場でテーマについて自分の考えや経験を述べることで自尊心を伴った言語習得ができる。 B. 各学習者が生活課題に即した話題でグループ学習をおこなうことで、生活に密着した単語や表現を習得できる。 ボランティアや他の学習者とのインタラクションを通じて、発話力と聴解力をつけることができる。 C.対話を中心とした学習活動で扱わない文法文型に関する知識を習得し、対話型活動での日本語運用が進む。
	参加対象者	希望する外国人住民、日本人住民、協働メンバー　／　参加者数（内 外国人数）：73人（36人）
	広報及び募集方法	協会広報誌、千葉市広報、 外国語媒体、チラシ、インターネット
	開催時間数	総時間　62時間（空白地域　12時間） A：3時間×3回×2期、 B：2時間×5回×2期、2時間×6回×1期 C：2時間×5回×1期 D：2時間×1回
	主な連携・協働先	千葉市男女共同参画課、千葉市廃棄物対策課、千葉市社会福祉協議会若葉区事務所
	開催場所	千葉市国際交流プラザ、若葉保健福祉センター

参加者の出身・国別内訳（人数）

中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
11	2		1	5	1	2	

アメリカ(1人)，イギリス（1人），イラン(2人)，エクアドル(1人)，エジプト(1人)，エルサルバドル(1人)，キューバ(1人)，コロンビア(1人)，スリランカ(3人)，ナイジェリア(1人)，マレーシア(1人)

実施内容

テーマでつながる日本語クラス

上段：学習者数
下段：支援者数・その他参加者数

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年6月11日（土） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	8人 0人	第1期(しごと)－①	しごとに関する講話と内容の共有。しごとに関する話し合い、スピーチの準備。	山田由美子、萬浪絵理、平田美智子（千葉市男女共同参画課長）	小野聡、藤平真由美、平澤昭男
2	平成28年6月18日（土） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	8人 8人	第1期(しごと)－②	学習者のスピーチと質疑応答、小グループに分かれて交流、対話、タスク活動。	萬浪絵理、山田由美子	小野聡、藤平真由美、平澤昭男
3	平成28年6月25日（土） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	8人 0人	第1期(しごと)－③	しごとに関するアンケートづくりとアンケート実施、集計。ディスカッション。	山田由美子、萬浪絵理	小野聡、藤平真由美、平澤昭男
4	平成28年11月11日（金） 13:00～16:00	3	千葉市国際交流プラザ	4人 5人	第2期(環境)－①	環境に関する講話と内容の共有。環境に関する話し合い、スピーチの準備。	藤平真由美、萬浪絵理、	平澤昭男

5	平成28年11月18日 (金) 13:00～16:00	3	千葉市国際交流プラザ	7人 14人	第2期(環境)－②	学習者のスピーチと質疑応答、小グループに分かれて交流・タスク活動。	萬浪絵理、藤平真由美	平澤昭男
6	平成28年11月25日 (金) 13:00～16:00	3	千葉市国際交流プラザ	5人 4人	第2期(環境)－③	環境をテーマに作文とミニドラマ作り。	藤平真由美、萬浪絵理、	平澤昭男
	計	18時間		71人				

にほんご会話クラス

上段:学習者数
下段:支援者数

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年6月21日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	3人 4人	グループ会話クラス1期－①	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	萬浪絵理	小野聡、高木敏子
2	平成28年6月28日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	3人 3人	グループ会話クラス1期－②	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	萬浪絵理	小野聡、高木敏子
3	平成28年7月5日(火) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	2人 5人	グループ会話クラス1期－③	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	萬浪絵理	高木敏子
4	平成28年7月12日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	2人 4人	グループ会話クラス1期－④	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	高木敏子	小野聡
5	平成28年7月19日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	2人 4人	グループ会話クラス1期－⑤	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	萬浪絵理	高木敏子
6	平成28年10月25日 (火) 10:00～12:00	2	若葉保健福祉センター	1人 1人	グループ会話クラス2期－①	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	萬浪絵理	高岡雅子、鈴木恵美子
7	平成28年11月8日 (火) 10:00～12:00	2	若葉保健福祉センター	5人 1人	グループ会話クラス2期－②	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	萬浪絵理	
8	平成28年11月15日 (火) 10:00～12:00	2	若葉保健福祉センター	3人 1人	グループ会話クラス2期－③	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	萬浪絵理	高岡雅子、鈴木恵美子
9	平成28年11月22日 (火) 10:00～12:00	2	若葉保健福祉センター	2人 1人	グループ会話クラス2期－④	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	萬浪絵理	高岡雅子、鈴木恵美子
10	平成28年11月29日 (火) 10:00～12:00	2	若葉保健福祉センター	2人 1人	グループ会話クラス2期－⑤	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	萬浪絵理	高岡雅子、鈴木恵美子
11	平成28年12月6日 (火) 10:00～12:00	2	若葉保健福祉センター	2人 0人	グループ会話クラス2期－⑥	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	萬浪絵理	高岡雅子、鈴木恵美子
13	平成29年1月18日 (水) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	3人 4人	グループ会話クラス3期－①	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	高木敏子	山田由美子、平澤昭男
14	平成29年1月25日 (水) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	5人 2人	グループ会話クラス3期－②	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	山田由美子	萬浪絵理、平澤昭男
15	平成29年2月1日(水) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	5人 4人	グループ会話クラス3期－③	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	高木敏子	平澤昭男
16	平成29年2月8日(水) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	3人 2人	グループ会話クラス3期－④	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	高木敏子	藤平真由美、平澤昭男
17	平成29年2月15日 (水) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	3人 2人	グループ会話クラス3期－⑤	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストからトピックを選んでモデル会話づくり。トピックについてのグループ対話。	高木敏子	藤平真由美、平澤昭男
	計	32時間		85人				

初級文法クラス

上段:学習者数
下段:支援者数

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年5月13日 (金) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人 9人	初級文法－①	動詞のグループ分け、て形、「～てください」の会話	萬浪絵理	
2	平成28年5月20日 (金) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人 7人	初級文法－②	ない形、「～ないでください」の会話	萬浪絵理	
3	平成28年5月27日 (金) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人 10人	初級文法－③	辞書形、「～ができます」「～ことができます」の会話	萬浪絵理	
4	平成28年6月3日 (金) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	5人 6人	初級文法－④	た形、「～たことがあります」の会話	萬浪絵理	
5	平成28年6月10日 (金) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	4人 7人	初級文法－⑤	「～とき」の会話	萬浪絵理	
	計	10時間		62人				

プロジェクト会議

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成28年4月18日（月）10:00－12:00	2時間	千葉市民活動支援センター	萬浪絵理、小野聡、高木敏子、高岡雅子、平澤昭男、藤平真由美、山田由美子、鈴木恵美子	今年度の日本語クラスについて	目標共有と具体策の検討
2	平成28年9月13日（火）10:00-12:00	2時間	千葉市国際交流プラザ	萬浪絵理、小野聡、高木敏子、高岡雅子、平澤昭男、藤平真由美、山田由美子、鈴木恵美子	前期日本語クラスの振り返りと、後期クラスについて	前期クラスの振り返りを受けて、後期クラスの企画・内容について意見交換
		4時間		16人		

※ 4月18日開催分は期間外のため、対象経費・時間等からは除外済み

（1）特徴的な活動風景（2～3回分）

〇取組事例①　　テーマでつながる日本語クラス(環境)

【第3回　平成28年11月25日】

環境というテーマで作文とドラマづくりをした。
このクラスに参加して知ったこと、考えたこと、思ったことを学習者・支援者ともに作文し、書いたあと、ほかの人の作文を読み合い、使われている単語をメモしたり、わからない表現を隣の交流員に確認したりした。ドラマづくりでは、2回目の交流会で描いた「100年後の理想の環境」の模造紙を参考に、テーマを決めてシナリオを作り、ドラマで演じた。3回のクラスで参加者同士がたくさん話しながら、テーマをめぐって楽しく協働することができた。

（ドラマのシナリオづくり）

（ドラマを演じる）

〇取組事例②　　若葉区にほんご会話クラス

【第2回　平成28年11月8日】

千葉市の6区の中で日本語教室がない若葉区での教室設置を目指して、会話クラスを7回で実施した。フィリピン、スリランカ、コロンビア、タイのさまざまな日本語レベルの人が参加した。まだ基本的な単語や文の形をほとんど知らない人、日常的な話題での意思疎通にはあまり不自由がない人それぞれ、「こんな場面でこんな会話が日本語でできたらいいな」という外国人参加者の設定に合わせて話をした。

（2） 目標の達成状況・成果

【テーマでつながる日本語クラス】
「環境」をテーマにしたクラスでは、「環境と自然の問題をたくさん話し合って勉強になった」「昔の日本の環境状況を初めて知りました。改善方法を参考にして考えていきます」（外国人）、「日本以外の国の環境やごみについて知り考えることができた」（日本人）などのコメントが挙がった。ここから、多様な人々が参加、対話をすることによって環境の課題を共有し、ともに未来を考える場となったと言える。同時に「ドラマをつくったり作文を書いたり、たくさん日本語を使うことができた」というコメントから、テーマにおける自己表現の手段として日本語を使うことが日本語学習になったことを学習者が評価したといえる。
「交流することに自信がついた」「自分のことや自分の国について伝えることができた」という項目に一定の評価があったことから、自己表現しつつ地域の人と関わることの意義が認められたと言える。
取組の自立に向けた人材育成として、中核メンバーである日本語指導者に対してファシリテーション研修を行い、「にほんご会話クラス」と併せて延べ9回のクラスを担当してもらった。ファシリテーターのほか、クラス運営に継続的に協力してくれる日本語交流員を含めた6名のメンバーで準備とふりかえりをおこなうことでPDCAを回すことができた。

【にほんご会話クラス】
間違いを恐れず話す人や、わからないときに「何というのか」とすぐに質問する人の様子を見て、発話に積極的になった参加者がいた。グループ対話により話題が深まり、出会った表現を調べたり説明してもらったりしながらことばを獲得していくプロセスが確認できた。アンケートでは「いろいろな人と交流しながら勉強する方法がわかった」「新しい学習方法や道具を知った」という項目に評価が高かったことから、クラスに参加することで「学び方を学ぶ」という効果があったと言える。
アンケートにて「日本語を使うことに自信がついた」「日本語で話せることが増えた・これから増えそう」という項目に評価が高かったことから、身近な出来事や生活上の課題を話題として日本語による表現力を高めるとともに、自分で語彙を増やしていくことや会話のターンを渡し合うことなど、日常生活の中で自律的に日本語のコミュニケーション力を上げていくための方法を学ぶ場とすることができたことがわかる。

【初級文法クラス】
文法、文型をおさえつつ、身近な話題ですぐに会話に使ってみるという形式をとったことで、日本語学習者と交流員の双方に、実践を重視する学習方法の重要性を理解してもらうことができた。このクラスのあと、教授法の知識のある交流員と小グループで学習するグループを開設できた。

【プロジェクト会議】
日本語クラスの運営に直接かかわるだけでなく、取組3に関連した意見なども挙げてもらうことができた。

（3） 今後の改善点について

「1回が短い」「もう少しクラスがあると楽しい」などのコメントから、時間数を変えて内容を充実させることが検討できる。
参加人数が少なかった要因として、有料化の影響や常時行われている1対1日本語活動の優先が考えられる。1対1と並行して参加してもらえるよう、参加の方法に工夫を加える。また今までの経験から仕事や家庭の都合で欠席が多いことに対応して積み上げ式にせず、参加者個々の興味や生活場面に合わせて毎回テーマが選べるようにしたが、5回終了時の達成感にやや欠けた感もある。プログラムの検討を行う。

空白地帯である若葉区でのクラスでは、期間中に千葉市から就業支援を請け負っている福祉関係の担当者から、「日本語があまりわからない外国人を訪問するケースもあり、訪問の際にやむなく日本語学習の支援をした経験がある。このような教室があると知っていれば紹介もできた」という話を聞いた。隣接する四街道とともに若葉区内には自動車関係の仕事をするスリランカ・ネパール・バングラデシュなどから来た外国人市民が急増しており、四街道では学校に通う児童や保護者の適応をめぐって問題が顕在化しているとのことである。これらの情報や、教室開催期間以外の時期に教室の有無に関する問い合わせも来ていることから、恒常的な教室設置に向けた取組の継続が必要であると言える。近隣の学校や広報媒体を更に探したり、関係団体との連携を図っていく。

＜取組2＞

取組2	取組の名称	支援者研修
	取組の目標	・講座終了後、参加者による学習支援の具体的な内容にカリキュラム案など、生活に密着したコミュニケーション支援の内容が取り込まれる ・対等な関係づくりを目指した活動が普及する ・支援活動未経験者が安心と期待を持って活動を始められる。 ・支援者が自己の学習支援のふりかえりができる
	取組の内容	A.　日本語交流員新基本講座 日本語初級者へのコミュニケーション支援に関する基礎知識提供と、傾聴スキルや「やさしい日本語」の演習 B.　日本語活動充実講座 対話型活動の素材紹介と演習。対等な人間関係構築を軸とした学習支援のありかたについての啓発。素材演習では、カリキュラム案から昨年と別のテーマを取り上げて教室活動に取り込めるようにする。 C. 対話の達人講座 学習支援活動経験者を対象とし、自身のコミュニケーションのあり方を省察する実践的研修とする。 D.　どうなってるの日本語講座 日本語の文の構造に関する講座。支援者が初級日本語話者にとって難しい点を知ることで、学習活動の質の向上をねらう。 E.　これは使える活動素材講座 1回完結で対話型素材を紹介することで、テキストに頼らない、生活と内容重視の活動の普及を図る。 F.　ファシリテーター研修 取組1の日本語クラスを進行できるファシリテーターの育成
	☑ 空白地域を含む場合、空白地域での活動	若葉区在住の支援者に積極的に参加を呼びかけ、教室立ち上げに向けて人材を確保する
	☐ 取組による体制整備	・既存の支援者の質の向上を通した外国人学習者の学習動機の向上および継続的な学習者の増加。 ・新たな支援者の増加を通した，地域での学習機会の拡充。
	取組による日本語能力の向上	
	参加対象者	学習支援ボランティア希望者および経験者、若葉区での活動希望者
	参加者数（内 外国人数）	141人（7人）
	広報及び募集方法	協会広報誌、チラシ、プロジェクトフェイスブック、協会ホームページ、日本語教室への案内など
	開催時間数	総時間　92．5時間（空白地域92．5時間） A:　2時間×3回×4期　B：3時間×7回×1期、3.5時間×1回　C:3時間×3回×2期　D:2時間×3回×2期　E:1回2時間×6期　F:2時間×1回 総時間数　92．5時間
	主な連携・協働先	市内日本語教室等
	開催場所	千葉市国際交流プラザ

参加者の出身・国別内訳（人数）	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	2	2					1	

イギリス（1人），台湾（1人）

実施内容

新基本講座

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成28年5月10日（火）10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	32人	第1期－① 日本語ボランティアとはなにか	地域の多文化化の現状と日本語交流員の役割について	萬浪絵理	
2	平成28年5月17日（火）10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	28人	第1期－② コミュニケーションスキル	相手に寄り添う方法、初級学習者の発話を促す傾聴型コミュニケーションスキル	萬浪絵理	
3	平成28年5月24日（火）10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	28人	第1期－③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容、「やさしい日本語」	萬浪絵理	
4	平成28年7月6日（水）13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	29人	第2期－① 日本語ボランティアとはなにか	地域の多文化化の現状と日本語交流員の役割について	萬浪絵理	
5	平成28年7月13日（水）13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	26人	第2期－② コミュニケーションスキル	相手に寄り添う方法、初級学習者の発話を促す傾聴型コミュニケーションスキル	萬浪絵理	
6	平成28年7月20日（水）13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	24人	第2期－③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容、「やさしい日本語」	萬浪絵理	
7	平成28年12月1日（木）10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	21人	第3期－① 日本語ボランティアとはなにか	地域の多文化化の現状と日本語ボランティアの役割について	萬浪絵理	
8	平成28年12月8日（木）10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	20人	第3期－② コミュニケーションスキル	相手に寄り添う方法、初級学習者の発話を促す傾聴型コミュニケーションスキル	萬浪絵理	

9	平成28年12月15日 （木） 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	20人	第3期－③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容、「やさしい日本語」	萬浪絵理	
10	平成29年2月18日 （土） 13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	14人	第4期－① 日本語ボランティアとはなにか	地域の多文化化の現状と日本語ボランティアの役割について	萬浪絵理	
11	平成29年2月25日 （土） 13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	12人	第4期－② コミュニケーションスキル	相手に寄り添う方法、初級学習者の発話を促す傾聴型コミュニケーションスキル	萬浪絵理	
12	平成29年3月4日 （土） 13:00～15:00	2	千葉市国際交流プラザ	13人	第4期－③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容、「やさしい日本語」	萬浪絵理	
		24時間		267人				

日本語活動充実講座

上段：受講者数
下段：外国人協力者数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成28年9月7日 （水） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	6人	①日本語活動における対話と相互理解	「レヌカの学び」などを使った活動とディスカッション	萬浪絵理	
2	平成28年9月14日 （水） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	7人	②生活とコミュニケーションの支援	外国人の発信を重視する日本語活動の考察、事例検討	萬浪絵理	
3	平成28年9月21日 （水） 9:30～13:00	3.5	千葉市国際交流プラザ	7人	③第2言語習得	外国につながるこどもたちの日本語支援の重要性について、心理学の視点からの考察	新倉涼子	萬浪絵理
4	平成28年9月28日 （水） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	7人	④日本語活動の素材	身近なものを日本語活動に活かす方法、演習	萬浪絵理	
5	平成28年10月5日 （水） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	7人	⑤日本語活動の素材（標準的カリキュラム案を使って）	他地域での活動の事例紹介と、活動づくりの演習。「標準的カリキュラム案」の紹介	田栗春菜	萬浪絵理
6	平成28年10月12日 （水） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	5人	⑥活動に役立つ、日本語についての知識	「正しい日本語」とは何か、事例検討	萬浪絵理	
7	平成28年10月19日 （水） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	6人 3人	⑦おしゃべりを学習へ	「おしゃべり」を「学習」にするためのポイント、学習者との協働セッションで演習	萬浪絵理	
8	平成28年10月26日 （水） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	5人	⑧今後に向けて	事例検討、ふりかえり、まとめ	萬浪絵理	
		24．5時間		53人				

対話の達人講座

上段：受講者数
下段：外国人学習者数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成28年6月2日 （水） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	5人 2人	第1期－①学習者オートノミーを支えるコミュニケーション	日本語を教えることに依らない学習支援について講義と演習	萬浪絵理	
2	平成28年6月9日 （水） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	5人 2人	第1期－②発話を助ける方法	「聴く」「待つ」スキルを学習者との協働セッションで実践	萬浪絵理	
3	平成28年6月16日 （水） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	4人 2人	第1期－③対話を進めるための工夫	グループ会話での演習	萬浪絵理	
4	平成28年11月2日 （水） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	5人 2人	第1期－①学習者オートノミーを支えるコミュニケーション	日本語を教えることに依らない学習支援について講義と演習	萬浪絵理	
5	平成28年11月9日 （水） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	4人 2人	第1期－②発話を助ける方法	「聴く」「待つ」スキルを学習者との協働セッションで実践	萬浪絵理	
6	平成28年11月16日 （水） 9:30～12:30	3	千葉市国際交流プラザ	5人 2人	第1期－③対話を進めるための工夫	グループ会話での演習	萬浪絵理	
	計	18時間		40人				

どうなってるの日本語講座

上段：受講者数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成28年6月15日 （水） 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	8人	文の構造	インタビュー動画と広報記事を素材として、主語や動詞を観察	萬浪絵理	
2	平成28年6月22日 （水） 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	8人	動詞の活用	動詞の種類と活用規則、動詞に続く表現の種類と使い分け	萬浪絵理	
3	平成28年6月29日 （水） 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	6人	品詞・文体	2つの文体と体系、使われる場面など	萬浪絵理	
4	平成29年1月12日 （木） 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	15人	文の構造	インタビュー動画と広報記事を素材として、主語や動詞を観察	萬浪絵理	
5	平成29年1月19日 （木） 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	12人	動詞の活用	動詞の種類と活用規則、動詞に続く表現の種類と使い分け	萬浪絵理	
6	平成29年1月26日 （木） 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	14人	品詞・文体	2つの文体と体系、使われる場面など	萬浪絵理	

12時間　　63人

これは使える活動素材講座

上段:受講者数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成28年6月14日 （火） 10：00～12：00	2	千葉市国際交流プラザ	9人	好きなものシート	「好きなものシート」を利用する学習活動の演習	萬浪絵理	
2	平成28年7月7日 （木） 13：00～15：00	2	千葉市国際交流プラザ	7人	生活マップ	「生活マップ」を利用する学習活動の演習	萬浪絵理	
3	平成28年9月6日 （火） 13：00～15：00	2	千葉市国際交流プラザ	11人	生活場面をテーマとした対話活動	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストを使った学習活動の演習	萬浪絵理	
4	平成28年11月9日 （水） 13：30～15：30	2	千葉市国際交流プラザ	3人	好きなものシート	「好きなものシート」を利用する学習活動の演習	萬浪絵理	
5	平成28年12月3日 （土） 13：00～15：00	2	千葉市国際交流プラザ	4人	生活マップ	「生活マップ」を利用する学習活動の演習	萬浪絵理	
6	平成29年1月25日 （水） 10：00～12：00	2	千葉市国際交流プラザ	5人	生活場面をテーマとした対話活動	「標準的カリキュラム案」の生活場面リストを使った学習活動の演習	萬浪絵理	
	計	12時間		39人				

ファシリテーター研修

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成28年12月16日 （金） 14：00～16：00	2	千葉市国際交流プラザ	３人	日本語クラスのファシリテーション	日本語理解力に幅のあるクラスにおいて対話を促進するファシリテーションの概要と演習	萬浪絵理	
		2時間						

（1）特徴的な活動風景（2～3回分）

〇取組事例①　対話の達人講座第2期

【第3回　平成28年11月16日】
受講時間の半分を外国人参加者と対話の実践（協働セッション）を行った。2回目セッションで録音や書き起こしで対話をふりかえり、課題に気づき、「次はこうしてみよう」と決めたことを受けて、3回目のセッションでは、対話が外国人参加者にとっては日本語習得の過程ともなるように、意識と工夫をしながら、「おしゃべり」と「学習」をつなげるためのコミュニケーションを模索した。

（外国人参加者との協働セッション）

（協働セッションをふりかえる）

〇取組事例②　これは使える素材講座

【第6回　平成29年1月25日】
対話型活動の素材とやり方をお知らせする1回完結講座の最終回。「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案」から場面を選び、想定会話をつくったり、受講者同士で対話したりして、活動する際の注意事項やコツを学んだ。

（2）　目標の達成状況・成果

【新基本講座】
「自分がおこなってきた活動が一方通行だったと思った。次回からは相手の国のことも聞いて共生できるようにしたい」「次々質問せずに待つことの大切さ、自分から発信してもらうための工夫などを活かしたい」「日本語で交流する中でお互いに得るものがあるように考えていきたい」などのコメントから、新規の活動希望者と従来からの人の双方に、対等な関係づくりをめざした対話活動の重要性が理解されたと言える。
「グループでの意見交換やまとめ、発表、ゲームなどいろいろな活動をして大変心に残った」というコメントから、参加型の共同学習によって講座の効果が高まったことが窺える。
「日本語活動の、違う面の楽しさに気づいた」「文法よりも話すこと、そう思いながら活動してきたことがよかったと思えた」「テキストではないものを使ってもたくさん会話ができることを学んだ」などのコメントから、日本語教授型の活動だけを実践してきた人が学習活動の新たな視点を得たり、自己流と感じながら対話型の活動をしてきた人が自信を得たりすることに講座が寄与したと言える。相互理解と日本語支援の双方の観点から、より実効性の高い学習活動の普及を後押しできていると考えられる。

【活動充実講座】
「相手の意見を聴くことの大事さ、自分の偏見を知ることの大事さ、ここからコミュニケーションが始まり対話が続くことがわかった」「言葉の役割、力について少しずつわかる気がしてきた」などのコメントから、様々な視点から日本語活動を考察するプログラムをとおして、目標とした「対等な人間関係構築を軸とした学習支援のあり方について学べる講座」が成立したと言える。
「おしゃべりが勉強に変化できることを身をもって体験した」などのコメントから、理念だけではなく具体的な日本語活動のあり方が理解されたことがわかる。
また、「家族・友人とのやりとりにおいても日本語交流員としてのスキル・心構えが必要だと思う」といったコメントから、本事業で唱える日本語交流員活動のあり方が、異なる価値観を持つ者との共生によって成り立つ多文化共生社会の実現につながると考えることができる。

【対話の達人講座】
「少しの意識の違いでお互いの時間がより有益なものになると思った」「コミュニケーションの取り方が具体的にわかってきた」などのコメントから、日本語学習者とのコミュニケーションのあり方を交流員がふりかえり、改善していくことによって習得支援をおこなう方法を知らせることができたと言える。

【どうなってるの日本語講座】
「日本語交流でわかりやすい日本語を使うヒントをたくさんもらった」「外国人が日本語を学ぶ時の難しさの一部を知ることができた」などのコメントから、日本語活動の質の向上につながる講座を提供できたと言える。
「活用の形を分析してみておもしろかった」「意識してみることを考えさせられた」「この事柄はもっと広く展開したら日本人のためになるだろうと思う」「外国語を勉強するためにも日本語の文法を学校で教えるとよいと思った」などのコメントから、第一言語の観察には外国人に対する日本語習得支援という目的を超えた学びがあると認識されたことがわかる。
「同じグループで話してみると自分の‘思い込み’に気づくこともあり、リセットしなおして考えることの大切さを感じた」というコメントから、文の構造を知るという学習項目そのもの以上の学び（あたりまえになっていることに改めて意識を向けることで得られる気づき）が共同学習によって生み出されたと言える。

【これは使える活動素材講座】
「ひとつの話題でいろいろな学びが得られることがわかり、大変参考になった」「 一方的な質問と答えの応酬にならず相互に自由に話すチャンスができる」「「お互いの背景がわかり、理解しやすい」「何もないところからも話を広げて日本語習得に役立つことがよくわかった」などのコメントから、素材の活用によって相互理解と日本語習得支援に資する活動ができる、つまり学習活動の質が上がることが理解されたと捉えられる。

【ファシリテーター研修】
事業の中核メンバーである3名に対し、日本語クラスのファシリテーションができるよう、研修をおこなった。実際のクラスのファシリテーションの様子やふりかえりのコメントなどから、事業の日本語クラスの理念や特徴など重要なことが理解されたと言える。

（3） 今後の改善点について

本事業では、日本語交流員のすそ野を広げるために新たな参入者を獲得することと同時に、従来から日本語学習支援をしている人々に対話型の活動を普及させることで多文化共生をめざす日本語活動の質の向上を図った。交流員の都合や関心に合うよう、短期で複数の種類の講座を設け、成果が認められた。

しかし、複数の講座を受講した人もあればほとんど受けていない人もいる。次年度は一層受講者を増やしていくため、講座の名称や間隔の検討のほか、実際の活動場面で活かしやすいような個別のフォローアップも検討したい。

その他の課題としては、より長期的な視点で成果を確認することが挙げられる。講座内容が実際の日本語活動でどのくらい取り入れられているか、量的質的調査をして結果を講座の改善に活かしていく必要がある。

＜取組3＞

取組3		
取組の名称		地域の多文化理解促進と成果普及
取組の目標		・地域住民の多文化理解が促進される ・地域において外国人住民と地元住民との対話の機会が増える
取組の内容		A 多文化理解セミナー 各テーマにそった講演と交流をセットで実施し、参加者同士の対話の場を創出する。 B 外国人住民の町内会活動参加促進 (a)防犯パトロール参加キャンペーン (b)防災セミナー C 事業成果普及 (a)フェイスブックでの事業告知や事業報告 (b)ちば市国際ふれあいフェスバルにおいてパネル展示やリーフレット配布での事業紹介
☑	空白地域を含む場合、空白地域での活動	多文化理解セミナー3を若葉区内で実施
☐	取組による体制整備	・地域住民の多文化理解が進み、多様な文化背景の市民が暮らしやすい地域になる。 ・セミナー参加者同士の対話の機会を設けることにより、多文化化に伴う問題と解決の重要性が認識される。 ・外国人にとって町内の隣人との日本語による対話の機会ともなる防犯パトロール参加斡旋により、外国人が地域に貢献できる機会が生まれる。 ・外国人の社会参加をめぐる問題について各地自治会と連携体制ができる。
取組による日本語能力の向上		取組Aは外国人市民との協働を核とするため、参加外国人はコミュニケーションの中で日本語習得を図れる。 取組Bにおいて、学習者が居住地の町内会パトロールに参加することにより、歩きながら近隣市民と情報交換をしたり対話をしたりする。生活に密着した日本語の習得の機会が増えるとともに、地域参加への糸口となる。
参加対象者		希望する日本人住民、外国人住民
参加者数（内 外国人数）		143人（61人）
広報及び募集方法		協会広報誌、チラシ、インターネットなど
開催時間数		総時間 18時間（空白地域2．5時間）
		A:3時間、2．5時間、2．5時間 B:1時間×5回 C:5時間×1回 総時間数 18時間
主な連携・協働先		自治会、警察、大学、防災士会
開催場所		千葉市国際交流プラザ、きぼーる、若葉保健福祉センター等

参加者の出身・国別内訳（人数）	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	11	10	2	5	10	5	3	
	イラン(1人)，チリ(1人)，ニュージーランド(1人)，パキスタン(1人)，バングラデシュ(1人)，ペルー(2人)，マレーシア(2人)，モルディブ(1人)，モロッコ(1人)、台湾(4人)							

実施内容

多文化理解セミナー

上段：日本人数
下段：外国人数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	概要	講師名	補助者名
1	平成28年10月1日（土） 13:30～16:30	3	千葉市国際交流プラザ	17人 28人	外国人市民と多言語で学ぶグローバルシティちばの未来	地域のグローバル化についての講話の後、グループ分かれてまちづくりに関するグループワークを行った。	神吉宇一	萬浪絵理
2	平成28年10月28日（金） 9:30～11:00	2.5	千葉市子育て支援館	24人 1人	外国出身パパママによる絵本の読み聞かせと子育て交流	インドネシア、オーストラリア、イタリア、バングラデシュ、タイの出身者が母語で絵本を読み聞かせし、絵本の一部を参加者もいっしょに言ってみたり、各国の手遊びを体験したりした。また、子育ての話題で交流をした。		カリオラ・グイド、セイケ・ボアロイ、アベダ・ヤスミン、ジョン・エバンス、根本マイムナ、萬浪絵理
3	平成28年12月10日（土） 14:00～16:30	2.5	若葉保健福祉センター	25人 7人	どうしてお祈りするの？聞いて話して知るイスラーム	イスラームについての講義のあと、日本に住む外国人ムスリムとの交流で理解を深めた。	福田友子	萬浪絵理、鈴木恵美子
計		8時間		102人				

防犯パトロール参加キャンペーン

上段：外国人参加者数
下段：支援者数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	協力先	概要	補助者名
1	平成28年7月16日（土） 19:00～20:00	1	幕張・幕張本郷地区	3人	幕張1丁目本郷町内会	自治会等の防犯パトロールに参加	
2	平成28年10月8日（土） 19:00～20:00	1	幕張・幕張本郷地区	1人 2人	幕張1丁目本郷町内会	自治会等の防犯パトロールに参加	
3	平成28年10月18日（火） 19:00～20:00	1	中央区今井地区	1人 1人	今井連合町会	自治会等の防犯パトロールに参加	
		3時間		8人			

防災セミナー

上段：日本人数
下段：外国人数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	概要	講師名	補助者名
1	平成28年10月13日（木） 11：00～12：00	1	千葉市国際交流プラザ	8人 12人	災害時の役立つ知識	ラップ、レジ袋、新聞を使ってコップやスリッパを作ったり、けがをしたときの止血や、骨折固定の方法を体験	正谷絵美（日本防災士会千葉県北部支部）	中村利孝（日本防災士会千葉県北部支部）
2	平成28年10月13日（木） 14：00～15：00	1	千葉市国際交流プラザ	6人 11人	救命救急	心肺蘇生やAED使用の体験	青木信夫（日本防災士会千葉県北部支部）	白川恵（日本防災士会千葉県北部支部）
計		2時間		37人				

事業成果普及

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	概要
1	随時				プロジェクトフェイスブック（https://www.facebook.com/chibatabunka26）にて事業告知や事業報告。
2	平成29年2月12日（日） 10：00～15：00	5	きぼーる		ちば市国際ふれあいフェスティバルにて事業紹介のパネル展示とリーフレット配布。

（1）特徴的な活動風景（2～3回分）

〇取組事例①　防災セミナー

【平成28年10月13日】
日本防災士会千葉県北部支部協力により実施した。午前の部では、ラップ、レジ袋、新聞を使ってコップやスリッパを作り、けがをしたときに血を止めたり、骨折を固定したりする方法を学んだ。午後の部では、心肺蘇生とAEDの使用を体験した。説明に使われる単語のリストを配布した上で、講師の説明を随時やさしい日本語に翻訳した。どちらのセミナーも参加者は日本語交流員とことばを交わしながら体験に取り組むことで日本語学習を兼ねた。

（災害時に役立つ知識　コップつくりを学ぶ）

（AEDの使い方を体験）

〇取組事例②　多文化理解セミナー2「外国出身パパママによる絵本の読み聞かせと子育て交流

【平成28年10月28日】
第1部は、いくつかのグループに分かれて、バングラデシュ（ベンガル語）、イタリア（イタリア語）、タイ（タイ語）、インドネシア（インドネシア語）、オーストラリア（英語）のゲストの絵本の読みきかせを聞いた。聞き終える度に、絵本の一文をみんなで一緒に言ってみたり、単語を覚えたりした。第2部では、各国の手遊びを全員で一緒に体験した。。最後に「子育ての楽しいところ」「大変なところ」をみんなで一言ずつ発信し、ゲストに質問したりして交流した。

（イタリア語での読み聞かせ）

（各国の手遊び）

（2） 目標の達成状況・成果

【多文化理解セミナー】
すべてのセミナーについて参加者全員が「よかった」「とてもよかった」としたほか、セミナーが参加型、対話型のグループ活動であったことを「おもしろかった」と評価した人が90％以上を占めた。この定量評価および以下の自由コメントから、地域住民の多文化理解促進および対話の機会創出という取組目標が達成されたといえる。
セミナー1（若者を主な対象）
「文化のぶつかり合いは人を考えさせる。それは進化につながると改めて感じた」「日本と外国についてだけでなく、グローバル化や日本の将来について改めて考えることができた」
セミナー2（読み聞かせ　子育て世代対象）
「生ライブで他の国の言語を聞けてすてきな体験だった」「各国の手遊びや子育てについて聞くことができてとても楽しかった」「子育てに国境はないな、とおもしろく感じた」「絵本の背景に地域の特色が出ていて興味深かった」「息子はどの国の言葉でも楽しんでいて驚いた」
セミナー3
「今までイスラムは義務的なイメージがあったのだが、思ったより信仰の自由度があると知り、驚いた」「ムスリムが「自由を尊重していることが印象的だった」「日本人がこんなにイスラムのこと気遣ってくれて（知りたいと思ってくれて）涙が出るほどうれしい」

【パトロール】
取組企画をとおして町内会や大学との連携を模索できた。
パトロール参加外国人全員が「よかった」「まちの人と話すきっかけになった」と評価した。参加日本人全員が「この企画に賛同できる」「一緒に地域活動をすることに意義が感じられた」、6割が「外国人住民の存在や暮らしについて知るきっかけになった」と答えた。ただし、参加外国人が少なかったため、話をすることができなかったという日本人が半数いた。

【防災セミナー】
NPO法人日本防災士会千葉県北部支部と連携して防災セミナーを実施することができた。防災士会講師には今回の実施をとおして地域に住む外国人への啓発の重要性およびやさしい日本語の使用や文化の違いの理解などの具体的な工夫の必要性に対して大きな共感を得た。先方のウェブサイトにて取組を紹介してもらうこともできた。
参加者の8割以上が「よかった」「とてもよかった」と答えた。

【成果普及】
年度の取組をまとめたリーフレットを作成して配布した。リーフレットは成果報告であるが、取組普及のツールとして利用しやすいようにタイトルや文言を昨年度よりも改善した。改善にあたっては、プロジェクト会議のメンバーからさまざまな意見をもらい、取り入れた。

（3） 今後の改善点について

セミナー1は特に若い世代の参加を期待した。高校生年代に地域の「国際化」について外国人市民を交えた対話型で考えてもらう機会は社会づくりの観点から意義が大きいと考える。市内の高校と連携する企画は物理的な問題で実現しなかったが、機会を窺っていきたい。
絵本の読み聞かせのセミナーは、幼児を連れた多くの若いパパママが参加し、申し込みが定員を超えた。定期開催を望む声もあったことから、自立化を図りたい。
　ムスリムの集住地区では学校で外国につながるこどもたちやその保護者をめぐって課題がある。また、モスクの利用者が地域との関係づくりのためにパトロールなどの地域活動を始めようとしていることが報道で取り上げられるなど、受け入れ住民が理解を深めるための取組は今後も重要である。セミナーに関心をもち参加に至るのは住民のごく一部であるため、既存の団体と連携しながら、取組を広げていく必要がある。

防犯パトロールは日常的な地域活動の中では、言語にさほど依存しないため、外国人市民も参加しやすい。また防災訓練に行って地域の人々とことばを交わすことができればコミュニティ参加のきっかけともなり、自身の安全のためだけでなく、地域貢献する機会ともなりうる。ネットワーク会議では警察から「外国人住民とコミュニケーションをとる機会を見出して関係を築き理解しあうことが重要」との事例報告もあったことから、協会に集まる外国人市民を地元のコミュニティとつなげていくことをめざし、関係部署と連携しながら取組を進める。外国人市民が個別に町内コミュニティにアクセスすることはハードルが高いため、市内全域に居住する協会登録ボランティアと一緒に参加できるようなコーディネートを検討する。
成果普及の場として、ウェブサイト上の広報とフェスティバル展示を柱としているが、ほかにも効率と効果が両立する場があるか、検討を要する。

＜取組4＞

取組4		
取組の名称		ちば多文化協働ネットワーク会議
取組の目標		「防災」「子育て」「介護」などの生活場面で起こっている（または起こると想定される）多文化化に伴う課題を共有し、解決に向けた連携をおこなうための持続可能なネットワークの拡充
取組の内容		H27年度に立ち上げた会議を継続開催するほか、取組1，3の中で各参加機関と連携・協働した。
☑	空白地域を含む場合、空白地域での活動	若葉区役所地域振興課が参加予定だったが、当日担当者が体調不良のため、急遽欠席となった、。
取組による体制整備 □		・各分野で個別に起こっている課題を共有することにより、多文化社会の課題解決に向け、横断的な基盤が強化される ・会議に地域在住外国人に参加してもらうことにより、担当者がその生の声をきいて現場での実践に有益な視点が提供される
取組による日本語能力の向上		
参加対象者	保健福祉センター、介護施設、各区の行政担当等、多文化化問題に直面する各関係機関	参加者数（内 外国人数）：19人（ 4人）
広報及び募集方法	個別の参加要請	
開催時間数	総時間　2．5時間（空白地域2．5時間）	1回　2．5時間×1回
主な連携・協働先	参加対象者に同じ	
開催場所	千葉市国際交流プラザ	

参加者の出身・国別内訳（人数）	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	1							
	アメリカ（1人），エクアドル（1人），オーストラリア（1人），日本（15人）							

実施内容

多文化協働ネットワーク会議　　上段：日本人数　下段：外国人数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	連携先
1	平成28年11月30日（水） 9：30～12：00	2.5	千葉市国際交流プラザ	15人 4人		千葉県千葉中央警察署、千葉県千葉西警察署、千葉市（国際交流課、幼保運営課、保育所、中央区役所地域振興課地域づくり支援室、中央保健福祉センター健康課、稲毛区役所地域振興課くらし安心室、美浜区役所地域振興課地域づくり支援室、美浜保健福祉センター健康課）
計		2．5時間		19人		

（2～3回分）

【平成28年11月30日】
各部署での現状と課題を報告し、情報共有した。 外国人市民も交え、グループで「安心安全な地域づくりと外国人市民」をテーマとした課題共有をした。

（2） 目標の達成状況・成果

多文化化する社会の課題解決に向けた情報共有という目標については、「さまざまな部署からの現状と課題について共有することができ、自分のところだけで感じている悩み・問題点ではないと実感できた」「他業種の方と意見を交換する場所など（今まで）なかったが、課題共有ができた」「食生活に関する文化の違いについて保育所の事例が参考になった」などのコメントから達成できたと考えられる。
「地域の中での保育所として、他機関との連携を積極的にとりたいと思った」「移動交番に周辺の住民のマナーについてなど相談していこうと思う」「ボランティア通訳を知ることができ、ぜひ外国人の保護者にも伝えたい」などのコメントから、解決に向けた連携をとるためにつながる、という目標は概ね達成できたと言える。

（3） 今後の改善点について

「国際交流協会がもっている情報（ボランティアや通訳）について、会議の場で情報提供してほしい」などのコメントから、各機関が持つリソースが十分に共有・活用されていないことが課題として浮かび上がった。また、情報共有について評価されたものの、「より具体的な課題を掘り下げていく必要がある」「事前に提出した課題に対して情報提供を準備してほしい」などの声から、情報共有から一歩進んで具体的な解決策を見出していくことも求められていることがわかった。会議体を基盤として、個別具体案件の解決のために部署や機関同士が実際に協働できるよう、協会が果たせる役割を考えていきたい。

4.　事業に対する評価について

（1）　事業の目的・目標

対話を基盤とする日本語支援活動の普及による日本語教育の質の向上と機会拡充、および多様な言語・文化を背景に持つ人々のあいだに対話の機会を創出することによる相互理解促進

（2）　目的・目標の達成状況・事業の成果

全ての取り組みで参加者アンケートを実施した。、取組1では前記のコメントから、取組2・3ではアンケートでは参加して「よかった」「とてもよかった」と答えた人が多かったこと、下記の運営員の事業評価からも事業の目的・目標を概ね達成できた。

運営委員からは下記事業評価のコメントがあがった。
〇本事業は 外国人住民をサービス受益者として捉えるのではなく、「相互に助け合って共に生きる」協働社会の構築を目指すという一貫した理念のもとに、計画的かつ継続的な実践プログラムを作成して、実践の分析、考察がされており、実証研究として評価できる内容になっている。本事業の成果は他市町での今後の取り組みのありかたにも大きな示唆を提供するものである。本事業はまた、日本人住民の対外国人意識の変容や協働の社会システムの構築に向け一つ一つ丁寧に実践プログラムを展開しており、プログラム参加者への気づきや相互コミュニケーションの重要性を重視した実践プログラムを展開している点でも高く評価できる。外国人という新たな構成員を含めたすべての構成員の視点から従来の社会システムを見直す過程への歩みは決して容易なものではないが、難しい課題解決に果敢に挑戦している点を高く評価したい。本事業では、日本人住民と外国人住民の双方の自己変容と協働の実現を目指し、一歩一歩着実に実践を積み重ねてきており、現実に即した意義ある取り組みである。

〇まず事業全体の評価として，経年で取り組みを深化させていること，前年度の課題を解決するための改善サイクルが機能していることなど，事業運営全体として非常に質の高い取り組みが行われていると言える。千葉市国際交流協会スタッフ間の連携もスムーズで事業の方向性を共有し，課題達成に向けて進んでいる点も評価できる。昨年度までの課題であった関係機関との連携については，まだ改善の余地はあるが，この点についても着実に体制を整えつつあると感じられる。
日本語教育面に関しては，地域の多文化共生と住民間コミュニケーションの円滑化という点から，今後の地域日本語教育のモデルとなりうる可能性を持っており，非常に高く評価できる。具体的に評価できる点は以下の3点である。1点目は日本語学習に関して，知識やスキル面の支援とコミュニケーション面の支援のバランスを考慮し，双方をうまく包含したプログラムにしている点である。他の多くの地域で，「日本語学習」か「交流」かといった単純な二項対立図式に陥ってしまい，本来相互補完的な関係になければならない両面をうまく取り扱えていない中で，本事業の取り組みは評価できる。2点目は，1点目を実現するための人材育成を着実に進めていることである。特に学習とコミュニケーションを支援するという視点を持った人材の育成に注力している点が評価できるポイントである。3点目は，学習の成果物を着実に積み重ねている点である。
facebook等を活用し，成果物を公開し蓄積している点は，その波及効果に加え，学習者自身の達成感にもつながるものであり，高く評価できる。

〇良い取り組みを行っているのに参加者が少なかったクラス・講座等があったことは残念であるが、その原因等を分析し今後の改善点として次回に活かそうとしていることは評価できる。
多文化協働ネットワーク会議について、planにあるように、課題や対応を「横断的に共有」することはできていると思うが、「～体制整備の基盤として機能する内容」として、どのような体制を整備したいのかがイメージできなかった。
また、課題解決に向けた対応について情報共有をするのであれば、事前に情報を収集し参加者に周知した上で協議することができれば、より具体的な検討や各自の取り組みへの反映イメージが持てるのではないかと思われる。

〇取組1については、日本語会話クラスの参加者が伸び悩んでいる講座に関しては、アンケートの結果等がさらに反映されていくと良いと感じています。
参加してくださった方々の目的が仕事、環境では明確に別れておりテーマが具体化すればするほど参加者の意識に訴えられるのではないか。
一定の地域への出張講座的なものからの開始でも人を集めるきっかけとなるのではないか。広告媒体はなかなか興味がなければ目にはとまらない。Facebookも整備されているのだから、参加者から積極的に友達申請して頂き、シェアしていただくなど目に触れる環境が拡大すると良いと思う。
取組2については、形として構築しているように思える。年代にもよるとは思うが、さらに支援者同士のネットワーク構築ができると強固なものになっていくのではないかと思う。
色々な仕掛けで、多文化協働という考え方の土台はできてきている。
今後日本に生活拠点を構える外国人は更に増えてくるなか、今参画してくださっている外国人の方々に協力して頂き、取組を地域の日本人に見てもらい、課題好きな日本人の頭を柔軟にすべくこの事業が発展していく事を願いたいと思います。

〇対話型の日本語クラスをファシリテートできる人材の育成も徐々にではあるが進み始めたことは大きな収穫である。

（3）　地域の関係者との連携による効果，成果　等

従来からの市役所関連部署、日本語教室や団体、自治会、警察などに加え、町内会や大学、外国文化関連団体との連携を模索した。NPO法人日本防災士会千葉県北部支部と連携して防災セミナーを実施、先方のウェブでも取り組みが紹介された。また、市内大学とは多文化理解セミナーなどで連携し、セミナー後には参加した学生が、当プロジェクトのフェイスブックに参加感想を書き込みをして、成果を発表できた。多文化理解セミナーでは、イスラム文化センターと連携、センター関係者がセミナーへ参加した。

（4）　事業実施に当たっての周知・広報と，事業成果の地域への発信等について

日本語クラスや支援者研修は主に、プロジェクトフェイスブック、千葉市国際交流協会のホームページやフェイスブックでの周知、千葉市国際交流プラザ内でのちらし掲示、区役所やハローワーク、入国管理局などでもちらし掲示を行った。千葉市国際交流協会への登録者へもメールで周知を行った。空白地帯である若葉区での日本語クラスでは、公共施設や外国人が利用しそうな店舗にちらし掲示をを依頼したほか、ハローワークから外国人を募集している企業のリストを得て取組会場に通えそうな事務所に電話やファクスで広報したり、30の幼稚園にちらしを送ったり、過去2年間に協会の日本語活動に参加したことのある30名に案内を送付したりして教室開設の予告をした。
交流会やセミナーなどは、千葉市役所の広報「ちば市政だより」や公民館へのちらし掲示なども行った。
事業成果の地域への発信として、千葉市内の関係団体で開催する「ちば市国際ふれあいフェスティバル」でのパネル展示や、事業パンフレットの配布、また、随時、プロジェクトフェイスブックでの、事業周知や報告を丁寧に行っている。

（5） 改善点，今後の課題について

運営委員からは下記のような課題があがった。
〇地域内でのさまざまな機関、人々との有機的連携をより一層進め、実践の活動をより広い範囲に展開することが次の課題となっていると考えられるが、今後はそのための方略を検討してほしい。継続事業として次の新たな展開に期待する。

〇昨年度と同様のコメントとなるが，現在のコーディネーターの仕事を引き継ぎ，広げていく人材の育成を行うことである。併せて，人材育成の成果を空白地域の支援充実にうまく落とし込めると，地域全体としての体制整備という側面から，より有益な事業となると思われる。
新年度もますますの事業の深まりを大いに期待する。

〇さらに多くの人に、この活動を知ってもらい参加してもらうことが、次年度に向けた課題である。日本語クラスでは特に、このクラスで何ができるのか、他の協会の日本語クラスや地域の日本語教室との差異を明らかにして、丁寧に広報する必要性を痛感した。支援者研修も種類と内容を工夫しているが、研修で得たことを、実際での活動で活かしてもらうための工夫をさらに進める必要もある。

日本語教育の機会拡充と質の向上、及び、多様な市民間の相互理解促進という2つの事業目的は、委託を受けてからの3年間で具体的な取組として成果を上げつつある。委員コメントも踏まえた今後の課題としては、空白地域を含めて更に多くの多様な市民や機関にこの活動を知って参加してもらえるように方策を練ること、及び、自立化に必要な人材の育成である。

（7） その他参考資料

〇アンケート結果

〇ちらし一覧

〇事業成果普及パンフレット